



子馬の口をおさえて、お母さんの乳しぼりを手伝う。モンゴル（オルズイート村）



兄弟そろって馬車で市場へ。幼い弟も見よう見まねで手綱をひく。キルギス（グリゴリエフカ）

子どもが集まる遊び場には、おいしそうな駄菓子屋の屋台が出ています。ガムやキャンデーやコーラ類が並んでいる。売っている子は、遊びながら親の手伝いをしている。



街角の屋台は売り手もお客も子どもたち。シリア（ダマスカス）

はたらく子どもたち——アジア・オセアニア

田沼武能

「貧しさは、天災のために生まれるのではなく、人災のために生まれる」という人がいます。たしかに政治や経済がしっかりしていない国や、宗教上の紛争のある国では、人びとは毎日つらい生活を送っているのです。

戦争や貧困にあえぐ国の子どもたちは、いやでも働かなければなりません。子どもたちにも生活の苦労がのしかかってくるといえるでしょう。

たとえば、オーストラリアやニュージーランドのような国は安定した発展をしているので、教育にお金をかけることができ、それが国の将来を支える大きな力になっています。

他のアジアの国ぐにでも、経済が発展しているところは、子どもたちの暮らしも落ち着いています。

しかし、指導者が古い制度にこだわっていたり、一部の人たちだけが豊かな国では、人びとの暮らしはなかなかよくなるようです。貧乏な人はずっと貧しいままに、希望のもてない生活をしています。

私は、アジアやオセアニアの恵まれない子どもたちがいっしょうけんめいがんばっている姿を、たくさんの人に見てほしいと思います。

はたらく子どもたち——中東・北アフリカ

田沼武能

中東や北アフリカでは紛争や戦争が絶えず、政治的に不安定な国がたくさんあります。とくに大きい問題はパレスチナの紛争でしょう。第2次世界大戦が終結するまでは、ユダヤ人がとてもつらい時代を送りました。そして、戦後は、パレスチナの人びとが難民となって苦しんでいます。

また、石油が産出されるようになった国では、生活が豊かになっているように見えますが、むずかしい問題も起きています。石油の利益を目的に、いろいろな国が入りこみ、政治や経済に影響を与えているのです。

このような複雑な事情を抱えた国の人びとは、社会環境に負けないように生きなければなりません。子どもたちも、ただなげいているだけでは生きていけないのです。

なんとか早く手に職をつけて一人前になろうと働いている中東や北アフリカの子どもを見ていると、悲しみよりもたくましさを感じます。子どもたちの活力、生きる力が、写真をとっていても伝わってきます。しかし、大人のなかには、そうした子どものバイタリティを利用して高い利益をあげる経営者もいます。

私は、そうした子どもたちの様子を、たくさんの人に見てほしいと思います。

魚を売る子は、自分で漁師から買って売り歩く。
買ったたり売ったりの値段のつけ方も、小さい頃
から見て、よく知っている。



「とれたての魚はいかが」仕入れた魚を売りに出かける。マラウイ(コタコタ)

少女だって、慣れた手つきでパンかごを頭にのせる。途
中で仲間に出会えると、かごを置いてちょっと遊ぶ。つら
くなんかない。やっぱり生活の達人だ。



妹をつれて、ちょっと遊びながらパンを売り歩く。グアテマラ(コタコタ)

はたらく子どもたち——アフリカ

田沼武能

アフリカの多くの国は、長い間ヨーロッパの国の植民地とし
て貧しい生活をしていましたが、ようやく独立してからも、内
戦などの紛争が絶えません。

紛争で農作物を奪われ、住んでいた土地を追われ、そのため
難民になっている人々もたくさんいます。また、厳しい自然の
なかで、干ばつや病虫害などに苦しみながら、農作物を作らな
ければならないのです。

そうした環境では、たとえ国が義務教育だといっても、恵ま
れた家の子ども以外は学校に行くこともできません。それどこ
ろか、生活のための大切な働き手として、小さいころから家の
仕事を手伝っています。一人でも人手が必要なので、土を耕し
たり、牛や羊の世話をしたり、道具を作ったり、水汲みや洗濯
など、なんでもやるのです。よちよち歩きの幼い子ども、家族
と一緒に畑に出ています。

どの国に生まれるのか、どんな親のところに生まれるのか、
子どもはそれを選ぶことができません。たまたま生まれてきた
場所で生きていくしかないのです。

私は、学校に行かず、生きるためにいっしょうけんめいに働
いているアフリカの子どもたちの様子を、できるだけ多くの人
に知ってほしいと願っています。

はたらく子どもたち——中南米

田沼武能

中南米では、古代にインカやマヤなどのすぐれた文明が栄え
ていました。しかし、そうした文明は滅びてしまい、16世紀以
後は、スペインやポルトガルなどヨーロッパの国の植民地にな
ってしまいました。

そんな歴史があるので、独立した国となってからも、支配階
級の人びとと一般の人びとの生活の差が大きいのです。多くの
人びとは働いても働いても楽にならず、ほんとうに一部の人の
だけが豊かな暮らしをしています。

でも人びとは、貧しくても明るくて大らかです。「明日は明
日で、なんとかなるさ」と思っているためです。

たとえば有名なカーニバルのときには、きれいな衣装を着て、
踊ったり歌ったりします。一年かかって一生懸命にためたお金
を使い果たしても、気にしません。苦しい生活を忘れて、思い
きり心を晴らしたいからでしょう。

中南米の子どもの暮らしを一言でいうと、「日のあたるところ
にいるわずかな子と、日陰のたくさんの子」といえます。そし
て、貧しい生活をしている子どもたちの多くは、「力いっぱい働
いて、早く親の生活を助けてあげたい」と思っているのです。
そうした姿を、たくさんの人に知ってほしいと願っています。